

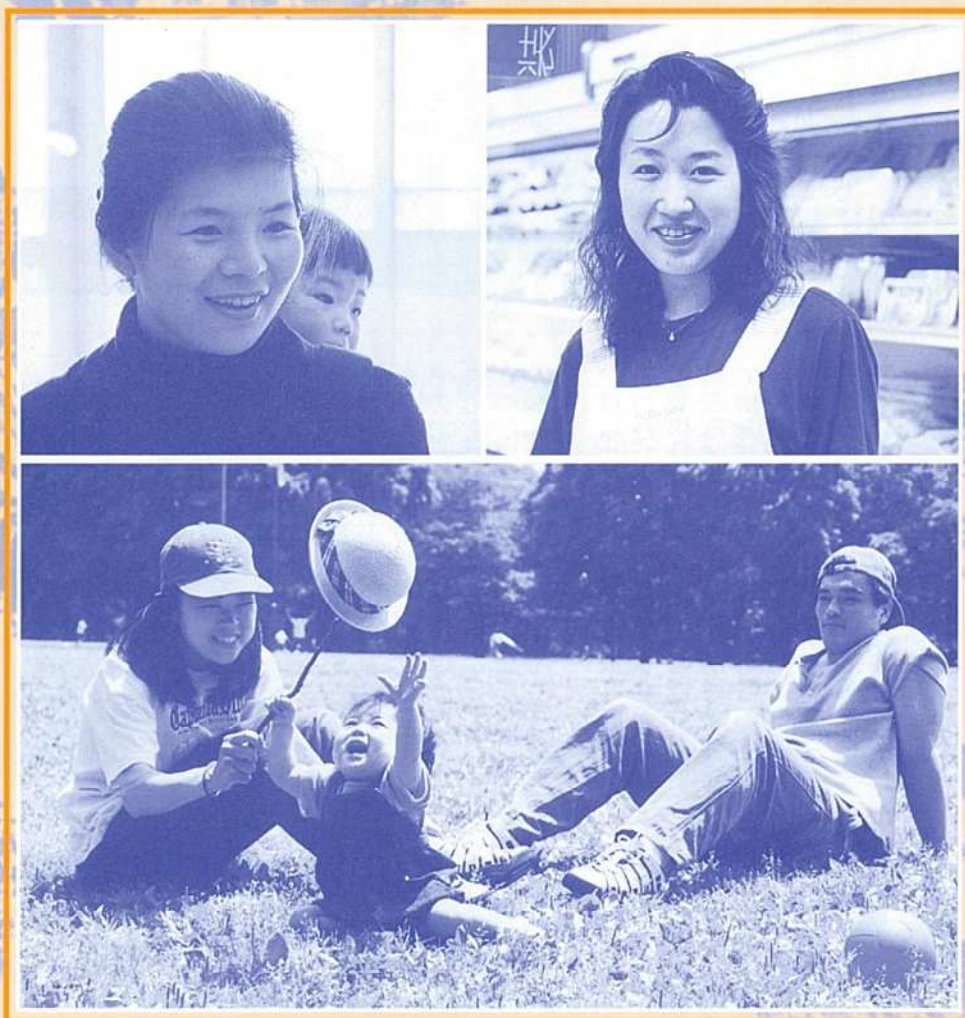
男女共同参画社会をめざす

アゼリア

Azalea

1999.6.30

NO.20



特集 地域の元気を紡ぐために



北区

R50

『アゼリア』は古紙配合率50%の再生紙を使用しています。

地域の元気を紡ぐために

女性区議にインタビュー

少子・高齢社会を 乗り切る鍵は 男女共同参画



大原康恵さん
(田端新町1丁目)

「普通のおばさんが議員になったのですもの、第一に勉強でしたよ。それから、区民に区政を知ってもらうことに力を注いできましたね」と、3期目に入った大原さんは議員生活を振り返り、同時に「議会は男社会。なんとか女性議員の数を増やして、女性の声をたくさん議会に届けたいんです」と夢も語られました。

「現在は子どもも自立して、夫の全面的な協力を得て活動している」と大原さんですが、やはり子育て時代

「今こそ女性の視点が必要とされているんです。日本経済が低迷し、企業も地域も活気がありませんよね。女性は地域にしっかりと根をはって元気に活動していますから、そういう皆さんとともに元気をつなぎあい、地域づくりをしていくことが大切なんです。」

常に地域での実践活動を大事にしてきた、黒田さんならではの発言です。

女性議長第1号になられたのご感想をうかがうと、

「私が議長になったことは議会における男女共同参画の第一歩だったと思っています。議会は民主的に話し合いをする場ですが、その精神を踏まえてスムーズな議会運営ができたことは議員の皆さんの協力があったことであるとともに、女性議員の力をご理解いただき、良い機会になったと思っています。私の後も林千春さんでしたしね」と、さわやかな笑顔でおっしゃいました。

はじめは議員活動も家庭のこともしつかり、という気持ちでしたが、しだいに議会に全力投球しなければならなくなり、そんな黒田さんを見ていたパートナーも変わらざるを得なくなったとのこと。

「大変な時期もありましたが、夫も定年退職しましたし、次男夫婦と同居していますので、息子のパートナーも含めて、家族全員が議員活動に専念できるよう協力してくれました。本当に恵まれています。でもね、そろそろ、女性議員だけではなく男性議員にも男女共同参画についてインタビューしていただきたいね」と黒田さん。

「男女共同参画社会を築くために

個々の生活スタイルを尊重した 新しいコミュニティと まちづくりを



相楽淑子さん
(赤羽北3丁目)

「今年で2期目ですが、実際に議員になってみると本当に大変なんです。でも、区政全体を女性の視点できめ細かく見直すことで、より暮らしやすい地域が実現できると信じて頑張っています。」

「区内のさまざまな声を集めるためにも、議員の女性比率を高めていくのは大事ですね。北区女性のネットワークの皆さんもお話しする機会があるのですが、区内のさまざまなところで女性が主体的にかかわり、地域を支えていることを実感しています。北区基本構想の審議会でも、女性が的確な発言をしているのを見

今年4月の統一地方選挙では東京都に初めて女性市長が誕生するなど、また新たな展開がありました。北区でも前回当選した7名の女性議員は揃って続投です。

21世紀に向けて、皆さんやる気充分。「女性議員だけでなく、今度は男性議員とも男女共同参画を誌面で語り合えようよ」と『アゼリア』への提案もいただきました。

議員のみなさんからのメッセージをお届けします(掲載は50音順)。



北区長、区議会議員選挙における投票率

全体に投票率が低下するなか、女性の投票率は全国的にも上昇傾向にあります。北区の今回の選挙でも、女性の投票率が男性を上回りました。

は大変だったとのこと。「こんな私たちが世代の体験を活かして、一刻も早く女性も働くのが当たり前、男性も家事育児が当たり前という社会にしたいわね」と、先輩主婦・母親の面もチラリ。

また、「区民の男女共同参画への関心は残念ながら薄い」とも。なぜなのか尋ねると、「男女共同参画をつい女性の権利ととらえてしまいがちだからではないかしら。実は、私もその一人だったんですよ。ところが、スウェーデンのような日本より先に高齢社会を迎えている国が、男女共同参画型社会を築くことでうまく問題を乗り越えていることを知ったんです。スウェーデンの3.5倍のスピードで超ウルトラ級の少子・高齢社会を迎える日本も、それを乗り越える鍵は男女共同参画型社会が築けるかどうかにかかっているのではないかしら。要は、男性もこの問題を自分のこととしてとらえられるかどうかですよ」という答えが返ってきました。

男女共同参画というものを全く新しい切り口、誰もが関心を持つ切り口でとらえ、範囲が広くて一朝一夕には結果のないこの大問題にコツコツ真つ正面から取り組んでいる大原さんは、とてもエネルギーッシュで、まさに私たち女性の代表選手であるように感じられました。

『アゼリア』も、こんな新しい切り口で男女共同参画を伝えていくこともっとわかりやすいし、新しい読者層も獲得できると思いますよ」と、大変参考になるアドバイスまでいただいていたインタビューでした。

議員としての経験を 次の世代へ



黒田みち子さん
(滝野川5丁目)

は、小さい頃からの意識改革が大切。教育の場での男女共同参画ももっと推進したいですね。それから、新たな女性議員を増やすための人材育成も今後の仕事です。あなたも一緒にやりましょうよ」と取材者のほうが逆に励まされてしまいました。

「区民が登壇する『アゼリア』はいいですね。北区には素敵な男女がたくさんいますから、誌面でどんどん取り上げ、ともに生きていく土台づくりをしてください。」

議員としての経験を次の世代へ。黒田さんのプランはもう21世紀に照準を合わせて進み始めています。

非常に頼もしく感じました。」

そんな相楽さんのパートナーやお子さんたちは、どんな関係を築いていらつしやるのでしょうか。

「とにかく、夫はとても協力的なんです。一番良かったのは、夫婦でもわからないことがあるんだから、きちんと伝えてほしい、とはっきり言ってくれたこと。彼も仕事があった、いろいろ忙しいのですが、今は家事に関しては彼が7割、私は3割かな。朝も目がさめると洗濯機を回す音が聞こえてくるような感じですね。息子たちはもう大きくなりましたので、私の生き方を認めているという感じでしょうか。」

「夫婦がお互いを認め合い、自立していることが大切ですが、相手の状況や気持ちを理解しようとすることも忘れてはいけません。そのバランスが微妙で難しいところです。」

相楽さんのところには毎日たくさん相談が寄せられるそうです。施行間近な介護保険、高齢化が著しい都営桐ヶ丘の建替え、新ガイドライン法と自治体との関わりなど、課題は山積。「でも、地域のみなさんと一緒に考え、行動することで、いい知恵が浮かんでくるし、実現への道のりも近くなるんです。」

「私は山田洋次監督の映画がとても好き。家族みんなで観てますよ。映画『学校III』では、八重桜の並木と夕日がいっぱいな赤羽台団地が舞台となっていて、監督も北区の美しい風景を知っていただけたんだなあ、と本当に嬉しくなりました。」

個々の生活スタイルを尊重した新しいコミュニティと安心して住み続けられるまちづくりをますます進めていきたい、と意欲的な相楽さんです。

しなやかに のびやかに そして しっかりしたたかに!



林 千春さん
(豊島4丁目)

議員生活7期目を迎える林さんは、いつもごく自然体。英会話ができ、司書の資格を持つ勉強家、という噂どおりの方でした。

早速、議員の立場から男女共同参画についてうかがうと、今はもちろん、25年前議員に立候補するときも、女性だからという意識はまったくなかったとのこと。

議員になっただきっかけは、子どもを預かってくれる保育園探しで奔走していた時、「議員になれば保育園を造ることができないのではないか」と言われたことです。子どもを持って働く母親の代表として切実な要求を実現したい、ということだったそうです。

林さんご自身も、祖母も母親も仕事を持っている環境で育ったので、子育てしながら働くのは当然だと思っていました。当時勤めていた職場では生理休暇をとるという意識も雰囲気もなく、産休取得も職場では2番目というのが実態でした。2人のお嬢さんは、議員として働く母親をごく自然に受け入れ、小学校1年生の頃から学校の履きまの洗濯はもちろ、遠足の時もお弁当以外の準備は全部自分たちでしていたそうです。

明るい林さんですが、ご自分のエピソードを話してくださった時には瞳が少し曇りました。

「長女3歳、次女が1歳のある日、夜の会合があって出かけようとしたら、長女が次女の気持ち悪いやうて、『お母さん、おぼけ足(忍び足)で出ていってね』と言ったんです。その時にはやはり胸にくっくっくるものがありました。でも、私にとって一度しかない人生だし、母親が懸命に働く姿を見せるのも意義あることなんだ、と議員を続けてきたのです。」

食事はその時につくろつと思っただ人、時間のある人がつくろつという感じで、特に役割は決めていないけれど、今となつてはそれがわが家のごく普通のやり方になっていきました。」

林さんは、区民とのふれあいの中から、政策決定の場にもっと女性が進出すること、そして、男女共同参画社会実現のためには、男女の別なく誰もが自立し、また平等であるという子どもからの教育が大切だと実感しています。

「議員としてもっとカリスマ的であれ、と言われることもあるのですが、やっぱり大事なものは自然体。これからもそうありたい」とおっしゃる林さんは、信頼の置ける人という印象でした。

「後援会各々に区民ではなく、『市民』という言葉を使っているのは、私たち一人ひとりが自分の考えを持ち、主体的に活動し、自己決定できる人になるという『市民』本来の意味を大切にしているから。自分もそうありたいし、皆さんにもご理解いただきたいですね。今は、市民意識が成熟するかどうかの分岐点にさしかかっている大事な時期なんです。」

地域でのリレートークや講演会・勉強会を開催し、地道に地域との連携を大切にしてきた古沢さんならではの明解な分析です。

そんな古沢さんの家庭内の連携はどうなっているのでしょうか。

「圧倒的によくやってくれているのは、連れ合いですね。長男は社会人で、長女も結婚し、次女は高校生です。家事などの負担は皆さんと全く同じだと思えます。今日のように一日中外出の時には、朝出かける前に娘のお弁当を作り、夕食のメニューを考え、下準備をして出てくるんです」と、議員の顔から妻、母の顔がちらりと覗きました。

「『アゼリア』でも、女性が政策決定の場に出ていくための後押しを積極的にしてほしいですね。男女共同参画は、小さい頃からの意識改革にかかっていると思いますので、今後はPTAなどにも積極的に働きかけてください。」

今期はじっくり構えてひとつでも多くの活動を結果させたい古沢さんです。

地域に合った 行政サービスを求めて



古沢久美子さん
(志茂5丁目)

議員として2期目を迎えた古沢さん。「市民派無所属」のひとりで、議会において積極的に活動してきました。

「ユニークな立場、つまりどこにも属さない中立の不偏不党の立場を意識して発言してきました。それゆえに、私の自己決定権を大切にできたし、自分の行動が幅広く密度の濃い活動にもなつたと思います。多くの出会いにも恵まれて、とても良い勉強になりました。」

「暮らしの足元からのニーズと実態とのギャップを埋めていくのが、私たち議員の仕事だと思っています。ここに良い勉強になりました。」

「議員は必ず現場に足を運んで区民の声を聞き、それを政策として議会に要望していく。これが議員の原点だと思えます」と、山崎さんは1期目4年間の感想を語られました。

こうして区民の生の声を拾い集める地道な活動がひとつの政策となり、それが実現したときの喜びが山崎さんの最大の喜びとなっているそうです。

地域の小さな声の中に 北区の大きな 問題が見える



山崎泰子さん
(豊島3丁目)

「この不況で、区民の暮らしは本当に苦しいです。区民の暮らしの中の困りごとこそ、大きな問題が潜んでいるんです。」

「アゼリア」には、「写真も文章もやわらかくて、ほっとできる小冊子です。自分たちの問題と合致している等身大の小冊子という感じがします。いろいろなタイプの家庭の紹介や、区民の情報発信の場にもなつてほしいです。」

2期目もどんどん町に出て、感度のいいアンテナを張りめぐらした活動をしてくれそうな予感がしました。

生活者の視点を持った 地域の良き パイプ役として



横満加代子さん
(王子3丁目)

「とにかく無我夢中で4年間を過ごしてきました。PTAや町会役員などの地域活動で区政とのかわりはありませんが、議員になって初めて議会や区政のしくみを知り、いろいろ勉強になりました。」

活動範囲も格段に広がったでしょうね、とおたずねすると、「そうですね。議員になつたことでさまざまな相談を受けるようになりました。地域の皆さんと一緒に成長している、という感じですよ」と、

「ごやかに答えてくださいました。いつも一生懸命の横満さんを見つめるパートナーは、議員としての活動に全力投球することを理解し、全面的にバックアップしてくださるそうです。」

「家事についても協力してくれませんか、何よりも私の一番の理解者として、私の言動や行動を厳しい目でチェックしてくれます。議員としてまず自らを正すこと、これは大事なことです。なかなか自分の姿はわかりません。そういう意味でもとてもいいアドバイザーといえると思います」と、ご夫婦の二人三脚ぶりも披露してくださりました。

長くPTAや地域活動をなさつていたご経験から、地域の男女共同参画状況について「意見をうかがう」と、「男女混合名簿なども小さい頃から取り組んでいけば、実態ももっと変わるでしょうね。PTAや自治会活動も女性の会長はまだ少ないですが、実質的には女性もずいぶん活躍しています。今後はどんどんリーダーが出てくることを期待しています。私自身もこれからの4年間で議員として一層成長し、生活者の視点を持った地域の良きパイプ役になるつもりです。『アゼリア』でもそういう身近な実態をしっかりと伝えてください。寄せられた一人ひとりの声が、地域の声としてまとまり、議員である私がそれを政策として実現すべく働きかける、という連携を大事に、暮らしやすい街づくりを進めていきたいと思っています。」

ご自身の第二のふるさとになった北区を、21世紀を担う若者たちにも愛してもらおうには、と横満さんはいつも考えています。

北区女性センター（アゼリアプラネット）相談室のご案内

夫婦、親子、近隣、職場、友人の人間関係やからだのことで悩んでいませんか。悩むことは、自分の人生をきちんと見つめるチャンスです。専門のカウンセラーや弁護士、医師があなたと一緒に解決の糸口を探します。お気軽にご相談ください。

相談内容	心の相談	法律相談	体の相談
相談日時	毎週水曜日 午後3時～7時 毎週金曜日 午後1時～5時	毎月 第1土曜日 午前9時30分～12時30分	毎月 第1火曜日 午後2時～5時
相談員	女性心理カウンセラー	女性弁護士	女性産婦人科医師
予約方法	上記相談日時に電話で予約	随時予約受付	随時予約受付
予約電話	☎3913-0015 (相談室専用)	☎3913-0161	☎3913-0161
相談方法	来所又は電話による相談	来所又は電話による相談	来所又は電話による相談

問い合わせ 女性センター（アゼリアプラネット） ※秘密厳守。費用は無料です。
 北区豊島1-14-12 ※保育を必要とされる方は、その旨お申し出下さい。
 ☎3913-0161

北区の女性史「翔ばたく女性たち」発刊

男女共同参画室では、北区の女性史の3巻目「翔ばたく女性たち」を発刊しました。

この本は94年に始まった「女性史ゼミナール」を受講した女性区民14人が執筆、編集したもので、戦後から高度成長期（1950年代～70年代）の女性の暮らしぶりや地域活動の様子が描かれています。

購入場所 区役所第1庁舎1階区政資料室及び書店

価格 1,200円

問い合わせ 北区総務部男女共同参画室 ☎3908-9307



Azalea No. 20

刊行物登録番号
10-2-006
(7月号)

平成11年6月30日発行

発行/東京都北区総務部

男女共同参画室

〒114-8508

北区王子本町1-15-22

TEL 03-3908-9307

FAX 03-3908-1803

企画・編集/アゼリア編集委員会

区民編集委員

草間浩子

本田りえ

矢澤弘子

厚美薫

写 真/小田原淑子

協 力/株式会社 タクト・ワン

暑い夏はもう目の前。
『アゼリア』20号がさわやかな風となつて、読者の皆様のもとに届くと良いのですが……。女性議員のインタビュ―がきっかけで、私にとつて今まで遠かった区政が一気に身近なものとなりました。「今度は傍聴にでも行つてみようかしら」と思っています。
(草間)

編集後記